

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101342		
法人名	株式会社 アゼーリ		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	島根県松江市黒田町475番地7 (電話) 0852-60-5860		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月15日

【情報提供票より】 (平成20年10月7日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤0人, 常勤換算14人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	～ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4.5～5.0万円	その他の経費(月額)	22,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(22.5～25.0万円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

## (4) 利用者の概要(10月7日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	4名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.6歳	最低 61歳	最高 96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江赤十字病院 浜田歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスや高齢者住宅を併設した複合施設の中にあり、事業所の利用者との日常的に交流がある。自治会長や利用者の馴染みの方等の連携のもと、地域におけるホームの存在が認知されてきた。運営規定に「家事等職員と共同で行う」ことが盛り込まれ、利用者の趣味ややりたいことを引き出し一人ひとりのペースを大切に支援している。全員が常勤であり、職員育成や会議等法人として組織立った運営が行われ、管理者・職員ともに良いケアをと意欲的である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価の意義と理解、家族等の意見の反映、現状に即した介護計画の見直し、プライバシーの確保、役割や楽しみごとへの支援等が改善課題としてあげられていた。職員の話し合いを通じそれぞれを改善している。引き続き検討している課題もある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニット毎に、毎日のカンファレンス時に職員で項目毎に検討し、管理者がまとめた。外部評価の改善課題も会議等で報告検討し改善に取り組んできた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2～3ヶ月に一回開催されている。多方面から参加があり、利用者の状況、駐在所からは町内の注意すべき場所等について報告されている。認知症の学習を行ったり、総合学習でホームを訪問した学童が感想を出したり、はじめて取り組む祭りに自治会長から宣伝協力の申し出がある等活発な意見交換が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日常的に家族の面会が多く、要望や意見、苦情が率直に出され、会議で検討の上きちんと対応している。家族会をはじめ開催し、継続への要望や日頃の思いや悩み等も出され好評であった。家族同伴の外出やホームで利用者と共に食事を作ること等が計画され要望にそった運営が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設施設の利用者との日常的な交流をはじめ、利用者の友人のお誘いによる公民館活動への参加、近くのスーパーの買い物帰りに介護相談に来られる人がある等、地域とのつながりが広がっている。アゼリアまつりに家族や住民が参加し交流した。小・中学生やボランティアの訪問もある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに事業所独自の理念を職員全員で考えながら作ろうとしているが、今のところまだ完成していない。	○	現在、実践していることを含め、地域密着型サービスを盛り込んだ事業所独自の理念を職員全員で作りに上げて頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「自ら受けたいと思う医療・福祉の創造」の理念を「自分でされて嫌なことはしない」と受け止め、日々のケアを行っている。カンファレンスや全体会、行動指針を通じて振り返りや確認する場がある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年はじめて「アゼリア祭」に取り組んだ。自治会長の協力で祭り行事が回覧され、地域の方の参加もあり交流もできた。小・中学生やボランティアの訪問もあり、併設のデイサービス利用者との日常的な交流もある。	○	地域の一員として自治会への加入を勧めたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット毎に、毎日のカンファレンス時に職員で項目毎に検討し、管理者がまとめた。外部評価の改善課題についても会議等で報告検討し改善している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に一回開催されている。利用者の状況をはじめ、駐在所や包括支援センターからも報告事項があり、幅広く意見交換をしている。多方面の委員で構成されている。	○	2ヶ月に一回の開催を期待したい。さらには委員会毎にテーマを設定して検討するような運営を望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議への参加以外に生活保護の利用者の相談を行っている。	○	ホーム側から積極的な関わりを持ち市担当者との日常的な連携を図って頂きたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況報告したり、二ヶ月に一回は担当者が書いた写真付きの手書きのお便りを送っている。時々利用者が書いた手紙も添えられ家族から喜ばれている。金銭管理表は入金時や面会の時に確認してもらっている。	○	金銭管理表はお便りを送る時等定期的に家族に報告し確認してもらうことが望ましい。写真付きのお便りで利用者の生き生きとした様子を継続して伝えて頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の面会も多く要望や苦情も率直に出され、内容は会議等で検討し対応している。家族会をはじめ開催した。家族から継続希望や要望等も出され、今後家族同伴の外出や食事づくりが計画されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みのケアを重視しており、ユニット間の異動は最小限としている。異動や担当者が変更した場合は、利用者への紹介や職員間の引き継ぎを十分に行うと共に家族に手紙で知らせている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として段階に応じた研修計画が立てられ、該当者は順次参加している。外部研修も積極的に参加し全体会で職員に報告している。ユニットでも毎月、疾患の学習や事例検討が行われ職員の育成に努力されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他事業所と交流の機会がある。地区内の介護サービス事業者の会議や市のグループホーム部会を通じ、他の事業所とも交流している。管理者は相互訪問を経験しているが、職員はこれからである。	○	職員レベルの他グループホームとの相互訪問の実現に期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族の思いを聞いたり、見学に来てもらっている。入居後も外泊してもらう等、徐々に馴染めるよう工夫している。併設のデイサービスからの利用者もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営規定に「家事等職員と共同で行う」が掲げられ、利用者の出来ることや能力を發揮してもらう場が日常生活の中にある。洗濯物の干し方やたたみ方、目上の人への挨拶の仕方を学んだり、体調の悪い時には労いの声がある等、お互いが支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聞いた時には家族に伝えたり、利用者との話の中から得た新しい情報はきちんと記録し職員間で共有している。難聴者の意向把握にホワイトボードやノートを活用している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや希望を把握し、職員間で検討し介護計画を立てている。生活歴や疾患・趣味等も取り入れた個別性のある内容となっている。主治医や家族と共に終末期のケア計画も順次立てる等、今年度重視して取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のカンファレンスで情報を共有し、適宜見直しを行っている。モニタリングは毎月行い、現状にあったものへと赤字で修正し、変更を分かりやすく工夫している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かし、利用者の健康管理や早期退院の支援、終末期の意思を確認している。受診時の同伴は家族が原則であるが柔軟に対応している。家族の宿泊もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医となっている。協力医による2週間に一回の往診もあり、協力関係も良好で急変時にも対応してもらえる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師、看護師、職員等関係者で医療的な処置やホームで対応可能なこと、家族の意向等、重度化や終末期ケアについて話し合っている。看取りの事例はない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレ誘導等、他の利用者に分からないよう声掛けしている。誇りやプライバシーに配慮した対応や馴れ馴れしい言葉使いにならないよう心掛けている。記録類はスタッフルームで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はその日の体調や気分に合わせて、掃除機やモップを使って掃除をしたり、裁縫や買い物等楽しんでいる。食事も部屋で食べる人もいる等、利用者のペースが尊重されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	焼ソバ作りや食器洗い、食器拭きを職員や利用者間で会話をしながら手際よく行っている。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を会話をしながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であり毎日入っている人もいる。希望にそってシャワー浴や足浴をしたり、入浴嫌いな人には清拭を行い清潔保持に努めている。夜の入浴希望者はない。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な人が雑巾を縫ったり、家で寝てばかりだった人が編み物を始める等、利用者の特技や趣味を引き出した支援を行っている。ゴミ袋づくりや草取り、お茶会をする等、役割を持ちながら日々の生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の買出しに近所のスーパーに出かけたり、散歩や馴染みの理美容院に行っている。馴染みの方と外食を楽しんだり、親しかった方と公民館に出かけている人もいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関や居室の鍵は開錠されていて利用者は自由に入出りできる。自由な暮らしのため、職員は見守りや安全面に心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と一緒に年2回の避難訓練を実施した。避難経路や消火器の使い方・夜間火災を想定した訓練を行っている。地域との訓練や備蓄品の確保はこれからである。	○	地域の協力が得られるよう、運営推進会議等での検討を期待したい。また、3日分の備蓄品の確保を望む。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録され全職員が把握している。好みの飲み物を用意したり、状態に応じてお粥等を提供している。法人の栄養士のチェックも受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な建物である。廊下やホールは広く、壁には利用者が作った作品が「文化祭」コーナーとして展示されている。畳コーナーやソファもあり、ゆったりと過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使っていた箆笥や椅子、仏壇等が持ち込まれたり、家族の持ってきた花や孫の写真が飾られている等、使い心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。